

第7回原野谷学園新たな学園づくり地域検討委員会 概要

日 時	平成30年10月24日（水） 19:00 ～ 20:30
場 所	原野谷中学校図書室
出 席	委 員 22人 事務局 教育長、教育部長、学務課長、学校教育課長 学校教育課指導主事、教育政策室長、教育政策室係長 教育政策室指導主事、教育政策室主任、教育政策室主事
内 容	
<p>1 開 会</p> <p>2 教育長あいさつ</p> <p>3 委員長あいさつ</p> <p>4 報告事項</p> <p>(1) 第6回地域検討委員会について ※事務局より説明</p> <p>5 協議事項</p> <p>(1) 検討委員会報告書（案）について</p> <p><b>【委員長】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・協議事項は二点ある。一点目は検討委員会報告書案について。二点目は学校施設の要望について。まず一点目について、検討委員会で出てきた意見が十分反映されているかどうか、字句の加除、修正等、見て気づいた点があれば。</li> </ul> <p><b>【委員】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・13ページ2行目、人工知能の字の誤り。2段落目の一番最後、新たな価値を創り上げていくことなどの「など」は不要ではないか。教育大綱かけがわの目指す姿の2つめの丸、前書きには地域にもグローバルにもという記載だが、ここでは地域でもグローバルにもという記載になっているが、どちらか。</li> </ul> <p><b>【事務局】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・地域「で」もである。</li> </ul> <p><b>【委員】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・15ページ②、学校間の縦の接続という箇所、3行目に中学進学の際の学習内容の過多とあるが、過多というと悪いことのように印象づけるので、違う言い方があると思う。</li> <li>・③の子どもの発達段階の2行目、身体の成長が早期化とあるが、早熟化ではないか。</li> <li>・17ページの5行目④の箇所、教職員間の連携が活発になりのところは、連携が深まり、強まり、進みといった言い方の方がよいのではないか。</li> <li>・この4行下のあたたかい原野谷学園の雰囲気を作り出されているとあるが、前書きの時には「あたたかい」は漢字表記なので、こちらも漢字表記の方がよいのでは。</li> <li>・21ページの下から4行目②今ある施設の長寿命化とあるが、長寿命というと長生きすることはよい、校舎は古い方がよいという印象を与えるので、これは老朽化としたほうがよいのでは。</li> </ul>	

【委員】

- ・これは長く使いたいという方針なのでよい。

【委員長】

- ・字句の修正を指摘していただくと、内容の読み取りも深まる。内容の修正も含めていかがか。みなさんのご意見は反映されたものとなっているか。

【委員】

- ・報告書は、行政の代表である市長への提言となるのか。

【委員長】

- ・提言先ということか。これは教育委員会になるのか、市長、教育長となるのか。

【事務局】

- ・教育委員会となる。

【委員】

- ・教育委員会からはどのようになるのか

【委員長】

- ・議会報告等、どういった形になるか。

【事務局】

- ・報告を受け、議会にも改めて報告するという事を今考えている。いただいた報告書を基に、次のステップに進んでいきたいと考えている。

【委員長】

- ・提言をそのまま議会等に報告するのではなく、別の形での報告になるということでしょうか。

【委員長】

- ・一般的に報告書は、施策そのものではないので、書いてある内容が100%施策的に結びつくということはないが、非常に尊重されて扱われるとは思う。それでよいか。

【事務局】

- ・よい。この報告書は、検討してきた重い報告書であるので、これを尊重しながら次の段階に活かしていく。

【委員長】

- ・事業化するためには根拠が必要だが、この報告書は有力な根拠となる。

【委員】

- ・20ページの②、施設一体型という点については相当時間をかけて至った結論であるので、この②をもう少し膨らめてもらえると嬉しい。

【委員長】

- ・検討委員会はもちろん、地域住民への説明も含めての結論である。他にもそれぞれの委員の立場、地区区長らからの立場等、様々な努力と住民理解の上にまとまって結論が出ている。これをもう少し膨らめてほしいということでしょうか。特に予算との関係では議会の承認が必要だが、どういう仕組みにすれば地区の要望が通りやすいのか、報告書の持って行き方を議員のお二人にアドバイスいただければ。

【委員】

- ・この後教育委員会へ行ってどうなるかということだが、おそらく教育委員も入って、教育委員会としての検討がなされる。その上で、市長も入っている総合教育会議にかけてもらわないとおそらく前に進まないと思う。

【事務局】

- ・最終的には総合教育会議にかけるかは不明だが、以前お話ししたように小中一貫教育のこととは別に、学校再編の話も進めている。いわゆる統廃合という話にな

るが、これは小中学校31校全体を考えての統廃合の話で、全部の学校区に関わってくる再編の話になる。これと検討委員会で挙げていただいたものを最終的には教育委員会から議会にも諮ったりしながら進めていく。

- ・ 一体校をつくるということについては、この報告書の提言で、この地域ではこの方法が望ましいということで進むと思う。その後地域としてはどういう学校作りが必要なのかということの検討に入っていく。このため並行するようなどころがあると思われる。再編については、この原野谷学園をどのようにしていくかというのは今ここでは申し上げられないが、もう少し範囲を広げた学園作りになるかもしれない、このあたりは検討委員会とはまた別の話となる。

**【委員】**

- ・ これはあくまで報告書なので、議会へそのままというわけにはいかない。総合教育会議にもこれをそのまま出すというよりも、教育委員会で検討した内容が出て行くのだと思う。しかし、資料として報告書を出してもらうのはよいかと思う。

**【事務局】**

- ・ これだけ時間をかけた内容であり、当然議員の皆さんにも知っていただきたいので、挙げていく。

**【委員】**

- ・ 委員長の言ったように大変わかりやすく、整理されている。報告書は第3回地域意見交換会に出していくと思うが、いかがか。

**【事務局】**

- ・ 第3回の時には、この報告書のほぼ完成したものを出したいと考えている。

**【委員】**

- ・ 原野谷学園だよりで学園会長が、一人でも多くの合意者を増やし、新たな地域の学園づくりを目指すとしている。副会長は、もっと若い人たちの参加を期待したいとしている。お二人の意見は大きい課題として、コーディネーターとしてもどうしていくか考えねばならないと思っている。若い人というのは、これから一貫校に子どもが関わってくる保護者のことである。地域でも意見交換会とか説明会へ参加するよう声をかけてきた。原野谷地域の若い保護者に関心や理解を持ってもっと参加してもらうためには、学校力がとても大きいのではないかと感じている。校長先生・園長先生が委員として出てくれているが、私は一般の担任の先生が保護者会の中でこの話題を出すなど、説明会・意見交換会への出席を呼びかければ出席者数は増えると思う。参観会等いろいろな行事の際に、保護者と身近な存在である担任が気楽に話せるような状況が生まれてくればとてもよいのではないかと思う。この検討委員会の中に保護者は7人いる。学校からもっと連携をとっていけば、よりみんなの意見を代表してここで言えるのではないかと思う。そういう場をつくっていかないと、また地域意見交換会の際に「知らなかった」「どんなことが進んでいるのか」という意見が出てくる。どうしたら伝わるかということを考えて、やはり学校の力はとても大きいと思う。

**【委員長】**

- ・ 一人でも多くの住民の理解を得る。保護者が今後の当事者となるので、いっそう理解を深めるためにも学校の働きかけが非常に重要になるのではないかと。

**【委員】**

- ・ 22ページだが、教育面の「面」は、財政面等と区別するために入れたのだと思われるが、ここは面は除いて「教育」だけのほうが広く教育という意味でよいのではないか。

**【委員長】**

- ・ ご指摘の通りだと思うが、いかがか。

(全員賛同)

**【委員長】**

- ・では「教育」に修正をする。
- ・2番目の協議事項、学校施設の要望に移る。

(2)学校施設の要望について

**【委員】**

- ・特色のある教育ができればよい。原野谷中はソフトボール部が強いので、ソフトをやるために原野谷中へ行くというような、特色のある教育・クラブ活動ができればよい。そうすると生徒が集まる。

**【委員長】**

- ・クラブ活動の連携・合同型ということで、合同チームでも県優勝できたケースもある。

**【委員】**

- ・学校の中に学童保育所をつくった場合、管理はどうなるのか。

**【事務局】**

- ・中央小は学童保育所が学校施設の中にある。専用の出入り口や区切りがあり、管理は基本的には別。運営は社会福祉協議会であったり保護者がやっていたり等いろいろだが、学校とは切り離して管理している。

**【委員】**

- ・先日の台風24号で学校が停電したことを考慮すると、新しくつくる学校は災害に強い学校がよい。例えば、周りが停電していても自家発電により電気がついて、水も出るといったようなこと。原野谷学園では防災に力を入れているので、防災に特化した教室があると地区の特長もでてよいと思う。

**【委員】**

- ・図書館について、家には娘の年代にあった本をそろえているが、一度学校へ持って行くと、クラス中に回ってみんなが読むということが多く、あまりにも人気なので、寄付をしようかと思ったことがある。しかし、現状本の寄付はできない。予算上蔵書数も少なく、学校が選ぶと偏りがちであるため、様々な本を受け入れられる場所があれば、より読書の幅が広がり違う側面から社会を見ることができるとは思う。

**【委員長】**

- ・本の利用や寄付について。菊川市は学校でパソコンを利用して市の図書館を借りる仕組みがあったかと思うが、掛川市ではどうか。

**【事務局】**

- ・パソコンは繋がっていないが、要望すれば貸し出しをしている。

**【委員】**

- ・この地区でも高齢者の一人暮らしが非常に多くなり、有事の際に自主防災会がどう支えていけるか、という話を聞いた。小中一貫校になったときに、旧校舎をリフォームして、高齢者に優しい部屋をつくったり、デイサービス等の跡地利用を考えてみてはという話をした。
- ・原野谷中は防災に力を入れているので、地区の防災訓練の時にも中学生がリーダーシップを発揮してやってくれており、これも原野谷中の特長と言える。これだけ高齢者が増えていく中においては、高齢者にどう対応していくかということも考えてほしい。

**【委員長】**

- ・現在の要望でも22ページに地域住民が集う交流スペースというのがある。今提言のあったように、跡地の利用については校舎を有効活用して、高齢者等が集いやすい形にしていくことが重要ではないか。

**【委員】**

- ・資格を持った施設の介護職員が中学生に介護のしかたを教えるというのもやってみたい。

**【委員長】**

- ・防災教育のほか、福祉教育の必要性という意見。

**【委員】**

- ・クラブ活動の他にも、高齢者の方々に元気に過ごしてもらうためには、体を鍛えられるトレーニングルームのようなものがほしい。昼間は高齢者、夕方になれば部活動、夜になれば地域の方が使う。現在はこうした施設はさんり～なまで行かないとない。こうしたスペースがあるといろいろな人が使えて、ここに来れば体が鍛えられて元気になるということで人が集まるのではないかと思う。

**【委員長】**

- ・市川大門町の学校で廃校になったところがあり、そこを地域住民のためのトレーニング施設としたところがある。地域の人は安く使えるほか、調理室や研修室など、教室をいろいろな形で有効活用している。

**【委員】**

- ・学校の機能しか考えていなかったが、これまでの意見を聞いて、小中一貫校となればそれなりの体育館も必要になる。そこで、総合運動施設のようなものをつくってそこにジムのようなものが入り、夜はコンサートに使えたりできる施設があったらよいと思う。いろいろな施設が整ったものになるとよいと思う。

**【委員長】**

- ・実現するかどうかはわからないが、要望としては強いと。
- ・みなさんに通学距離とスクールバスの関係をお諮りしたい。前回も話が出たが、小学生に4km歩かせるのは少し酷ではないかと思う。これを報告書にどう示すかということだが、今の書き方だと国や市の基準が示されており、読み方によってはこの基準通りにやらなければいけないという印象を受ける。もう少し子どもの体力等に合わせ、杓子定規でなく弾力的に扱うというような一文を入れてもらえたらと思う。

**【委員】**

- ・今までの概念だけでなく新たな手段をやっていくというのが大事だと思う。

**【委員長】**

- ・いろいろな角度から意見が出たので、ぜひ報告書へ反映させていただければと思う。
- ・前半の協議で出たのは大きく二点、一点目は今後の検討委員会や住民説明会への姿勢として、地域住民一人でも多くの人に理解してもらうことと、保護者が今後の当事者として重要であるということ。またこれに対する学校・園の説明や対応。二点目は報告書の今後の扱い。資料という扱いになってしまう可能性もあるが、教育委員会で検討してもらい、総合教育会議等へ可能な形で示し、検討委員会の意向が十分反映されるようお願いしたい。

以上で協議を終了した。

6 連絡事項について

(1) 今後の予定について

地域検討委員会・地域意見交換会

・第8回地域検討委員会 平成30年11月28日（水）19:00～

7 閉 会